

パチンコ依存脱出、店主も支援

「胸張って経営」めざし電話相談

多くを失っているのに、抜け出せない。パチンコやパチスロにのめり込んでしま
う人々への支援が動き始めている。「ばちんこ依存問題相談機関 リカバリーサポー
ト・ネットワーク」(事務局・沖縄県西原町)による電話相談も、その一つだ。活動
に火をつけたのは、パチンコで生計を立ててきたある人物の葛藤だった。(谷啓之)



リカバリーサポート・ネットワーク運営委員の
力武一郎さん＝大分市

大分市南郊の街道沿いにあるパチンコ店。入り口に「リカバリーサポート・ネットワーク」のポスターがあった。「あなた
の遊技は、度を越えていませんか?」。休憩コーナーには、ギャンブル依存に警鐘を鳴らす本
や冊子も置かれている。
店の経営者は力武一郎さん(45)。ネットワークの運営委員だ。「心にぽっかり穴のあいて
いる人が一番手近にあるものにはまってしまふ。その一つがギャンブルです」と語った。
祖父が始めたこの店で、大学卒業後に働き始めた。26歳で営業を任されたが、翌年、自分のミスで1千万円を越す損失を出
す。心身の不調が続く、精神科
病院に行くと、仮面うつ病と診
断された。「つらかったでしょ
う」。医師の言葉で重荷が下り
た。健康の大事さが身にしみた
経験だった。
01年、店の経営を父から継い
だ。力武さんは仕事に後ろめた
さを感じていた。店のパチスロ
で夫の退職金を使い果たした主
婦の話が耳に入る。「パチンコ
が昔より金のかかる遊びにな
り、いびつな形で両売をしてい
るという負い目がありました」
「毎日何万円もとられる。今
日から水で食事。切ない、ひど
い生活……小さな幸せを取り戻
したい。経営者は笑ってよい生
活をしているのでしょうか」。同
じ頃、こんなはがきも届いた。
「おはがきを拝見して、せつ
ない気持ちになりました。借金

「適度な楽しみ」へ医師とも連携



リカバリーサポート・ネット
ワーク代表の西村直之さん

をしてまでパチンコをしてほ
いとは決して思っておりませ
ん」。返事を店の掲示板に張り
出すと、また、はがきが届い
た。「あなた、偽善者だな」
「ぼくはパチンコ店の経営者
だ。胸を張って言いたい」と思
った。店の経営理念を「リフレ
ッシュを必要とするお客様に
「適度な楽しみ」として娯楽を
提供すること」にした。ギャン
ブル依存問題の勉強を始めた。
ギャンブル依存からの回復を
支援する入所施設「ワンデーポ
ート」が横浜市にあることを知
り、電話をかけた。施設の代表
は中村努さん(41)。ギャンブル
漬けの十数年で約3千万円をつ
ぎ込んだ過去があった。
力武さんは業界団体「全日本
遊技事業協同組合連合会」(全
日遊連)の会合でも、依存の問
題に取り組むべきだと訴えた。
反響もあったが、08年には全日
遊連にパチンコ依存の研究会が
でき、メンバーに選ばれた。会
の研究成果を形にするために立

専門家の協力不可欠

ギャンブル依存問題への取り
組みには、さまざまな分野の専
門家の協力が欠かせない。横浜
市内で家族セミナーを開く「強
迫的ギャンブル対策協議会」に
も、回復支援施設の職員、司法
書士、精神保健福祉士、精神科
医などが加わっている。

さいたま市で相談室を開く
同協議会事務局長の高澤和彦
さん(精神保健福祉士)は、
「依存症タイプなど様々な例
があり、それぞれ支援の仕方
が違ふ。一人一人異なる必要
だ」と話す。

ち上げたのが、リカバリーサ
ポート・ネットワーク。06年4月
に電話相談を始めた。
ネットワークの代表を引き受
けたのは沖縄県西原町の精神科
医、西村直之さん(48)だ。ワン
デーポートを支援してきた縁で
中村さんを通じて力武さんに出
会い、協力を決めた。
西村さんは「力武さんらパチ
ンコ経営者の熱意を感じまし
た」と語る。相談件数は、08年
度までの3年間で3022件。
パチンコ依存問題を抱えた本人
から52%、家族・友人からが
38%だった。自治体の精神保健
福祉センター、当事者や家族の
相互援助グループ、ワンデーポ
ート、医療機関など、それぞれ
のニーズにあう地元相談機関を
紹介してきた。今秋にはNPO
法人になり、パチンコ以外の依
存問題にも取り組む予定だ。
力武さんはいらう。
「経営者でもスタッフでも、
悪いことをしていると思ったら
人は頑張れないと思うので、
多少でも誰かの役に立っている
という気持ちを持ってない」と

同ネットワークは、☎050
・3541・6420(平日午
前10時～午後4時)。